



定語を修飾するかについての過程について記述できた。

第3章では、否定文にテンス・アスペクトを表す機能語があまり出現しない理由について説明できた。その理由としては、①肯定文の情報が否定文の前提になっていることが、前提に含まれる情報の中にはテンス・アスペクトの情報も含まれる。ベトナム語の否定文では旧情報である文法範疇に関する情報が無視される。②否定語の本来の意味によって文のテンス・アスペクトが分かる。③NPIの本来の意味によっても、テンスが分かる。

第4章では、第1章、第2章、第3章の分析の上で、日本語にないベトナム語の否定の特徴をまとめて、日本語の否定と全体的に対照し、日本語の否定との類似点および相違点を取り上げることができた。相違点については、ベトナム語には多様な否定語、NPIがある。それぞれ否定語、NPIは多様な意味・用法を持っている。日本語の否定辞は動詞述語、形容詞述語、名詞述語の接尾辞であるが、ベトナム語の否定語は日本語より自由に移動できる。否定作用域、否定焦点を確認することは日本語において助詞のシステムによることができるが、ベトナム語には助詞がないので、語順および否定語の文中の位置による。

日本語とベトナム語は語族の面では基本的に異なるので、類似点が少ない。しかし、類似点がないということではない。例えば、日本語にも多様な否定表現がある。このような否定表現は否定意以外に多様な意味・用法を表すことができる。

本研究での考察が不十分であったり、取り上げることができなかった問題を述べる。まず、否定語およびNPIを体系化することができ、基準を立てることによって、否定語およびNPIの資格を確定でき、否定語、NPIの多様な意味・用法を考察できたが、まだ分析の足りない面がある。特に、派生否定語の考察は十分だと言えない。それに、資料不足で、十分に否定語およびNPIの通時的な研究ができなかった。また、ベトナム語にも方言があるが、まだ方言の否定語およびNPIを対象とすることができなかった。対照研究においては、日本語の否定とベトナム語の否定の類似点および相違点を指摘することができたが、ただ、類似点および相違点を取り上げる程度に止まっている。例えば、否定の作用域、否定の焦点および否定辞繰り上げの問題である。

以上述べた点に関しては今後の課題とする。